

## 巻頭言

本号の『一神教学際研究』(JISMOR)は8本の論文と報告等から成り、そのうちの6本は当一神教学際研究センター(CISMOR)のリサーチフェローによるものです。いずれも当研究センターにおける2017、18年度の研究活動の成果です。

本号冒頭は、2017年7月18日に本学神学館で開催された公開セミナーの報告です。アラビア語のハラールとハラームの意味についての四戸潤弥氏の講演、および阿部泰士氏によるイスラームの宗教的思想に於ける経済的利益とビジネス、並びに現代のビジネス経営に関する講演が収録されています。

また2018年6月16日にはジョナサン・マゴネット氏、および小田淑子氏による宗教上の禁止に関するシンポジウムが催され、それぞれがユダヤとイスラームの食生活に関する禁止規定について、日常生活に関連させつつ報告されました。それにより日本ではあまり知られていないユダヤとイスラームの慣行について紹介することができました。これらの講演の報告が第2部に掲載されています。

また、第2部には、勝又悦子氏および私自身による古代世界のテキスト・ヒッタイト、ヘブライ語聖書、ユダヤのラビに関するテキストに関する論文も収録されており、知恵や社会制度といった古代社会の概念について考察されています。

本号後半部では、イランの近年の観光イノベーションに関する中村明日香氏による研究ノート、またマルティン・ブーバーを題材とした邦語新刊書に対する平岡光太郎氏の書評を収録致しました。

アダ・タガー・コヘン  
一神教学際研究センター長  
2019年3月、京都